

令和3年11月大井町教育委員会定例会 会議録

日 時 令和3年11月22日（月）16時00分～17時00分
場 所 大井町役場 3階 301会議室
出席委員 夏苺一壽教育長、牧野誠一郎教育長職務代理者、中條政夫委員、
小島茂子委員 小嶋真希委員
出席職員 石井浩二参事兼教育総務課長、内田憲治生涯学習課長、大川智也指導主事、
山崎良徳社会教育主事
【書記】山崎好之教育総務課副課長
傍 聴 人 なし
会議内容

- 1 開会 夏苺教育長から開会の宣言をする。
- 2 前会議録の承認 令和3年10月定例会の会議録が承認され、小島委員と小嶋委員が会議録に署名する。

3 教育長の報告

- (1) 教育長の報告 資料により夏苺教育長が説明する。

(要旨)

10月定例会以降に出席した主な会議等の報告をする。

初めに、11月19日に湘光中学校で行われた郡中学校教育研究会並びに定例会前に開催された総合教育会議への出席に対する御礼を述べる。

続いて、10月22日に開催された「足柄上地区教育長会議」において情報交換された話題と、引き続いて行われた「足柄上郡教育長会」で話し合われた案件について報告をする。

10月26日開催の校長園長会議に関しては、9月30日に開催された「市町教育長会議」の内容等について伝えたこと、各園学校からの報告内容として、コロナ禍での園学校行事の取組の中からピックアップして、湘光中学校の文化祭及び人権教育講演会の様子、小学校の修学旅行の代替計画や校内での授業研究の取組、幼稚園については降園時刻の状況や運動会について報告をする。

11月12日に研修会として開催された「西湘地区教育長協議会」については、早稲田大学教育・総合科学学術院教授小林宏己氏による「ウィズコロナ・アフターコロナの学校教育 一求められる教育委員会の役割一」と題して行われた講演の内容を報告する。

そのほか、幼稚園の満3歳児保育利用希望者の状況と、12月2日から始まる議会第4回定例会関係として教育委員会関係に寄せられた一般質問の内容について報告する。

- (2) 各課・センターからの報告

①教育総務課関係事業報告

資料により石井参事兼教育総務課長が説明する。

②生涯学習課関係事業報告

資料により内田生涯学習課長が説明する。

4 議 事

(1) 協議事項

○大井町立幼稚園・学校のあり方について

資料により山崎副課長が説明する。

(要旨)

前回の定例会において提示した「幼稚園学校の今後のあり方に係る意見集約」(案)に対し、委員より意見や示唆等があった部分に関する追加表現等について口頭で確認するとともに、手元の資料は検討委員の確認を経ている旨を報告する。

この意見集約を受けて、今後、教育委員会で協議していきたい。

【質疑等なし】

5 その他

○令和3年度全国学力学習状況調査分析について

資料により大川指導主事が説明する。

(中條委員)

ここ何年間かずっと同じ傾向にある、勉強時間とゲームとの関係を見ていくと、家庭学習の時間が短くてゲームする時間が長い状況が気になります。当然学校でも啓発や指導をしているのでしょうけれど、変わっていかないことが見ていて歯がゆい感じがしますし、毎年同じ傾向が出てくるのが残念です。大きく変わってほしいです。

(牧野教育長職務代理者)

以前、総合教育会議でも協議しましたよね。保護者の方をお願いしていたように思うのですが、徹底しないのでしょうか。

(大川指導主事)

情報教育の視点で毎年、(株)教育ネットの「情報モラル教育支援お助けNet」による情報モラル・ネット利用における実態調査を行っています。小学校はローテーションですが中学校は毎年、児童・生徒・保護者を対象として行い、細かく分析された結果・実態をもとに、教職員は研修を、児童・生徒は情報モラル等に関わる学習を、保護者に対しては学年懇談会等PTAの行事を利用して、それぞれ学ぶ機会を設定しているのですが、保護者の場合、多くの方に足を運んでいただくことがなかなか難しく、職員も実態が毎年変わらない中で家庭にどうやって周知を図るか協力を求め続けていくか、悩んでいるところが実態としてあるので、なんとか検討していきたいと思います。

(夏莉教育長)

学校によっては家庭学習の充実に取り組んできているところがあるのですが。

(大川指導主事)

大井町には、平成28年度に大井町教育委員会(生涯学習課・教育総務課)と大井町P

TA連絡協議会が協同作成した「おおい ケータイ・スマホ・ガイドライン」があり、家族みんなで話し合いながらルール作りをするための手引きもあります。

(夏苺教育長)

なかなか徹底しないところもあるのですが。タブレットをどう活用するか、特に家庭での話も話題になっているのですが、タブレットを持ち帰らなくてもアカウントでドリルパークを行えるというのもあるわけで、そういった活用というのも方策の一つかと思っています。

家庭で日常的に端末を使うことが実際あるかどうかというのがあります。

先日の小林宏己先生の講演の中にもいわゆる反転授業といって家庭で予習をしてくる前提で授業がスタートするという取り組みも以前から話題になっているのですが。実際には浸透していない状況もあるかと思う中で、いずれにしても家庭でどう活用していくかを課題としてあげられるかと思います。そのようなことも含めながら取り組んでいけたらと思います。

(山崎社会教育主事)

社会教育の視点から今のお話を聞かせていただいたときに、家庭教育力ということでPTAを交えた家庭の教育力が重要になってくるかと思ひまして、学力の方に対してもスマホの時間の半分でも読書の時間に充てて、読むことに対する効果が相乗的に上がっていけばよいかなと思ひました。現在、社会教育の方でも図書室の整備ということで、そういった視点から取り組んでいますので、学校教育とリンクして学力に繋がっていけばよいと思います。

(夏苺教育長)

生涯学習課で、家読とかに取り組んでいってもらえればいいですね。

(中條委員)

今の時代、スマホで読書ができる時代で、子どもたちは漫画もスマホで読んでいるのではないかと思うのですが、スマホの弊害が顕著に表れているのではないかという気がします。子どもにとっては、スマホは楽しい存在かと。それにブレーキをかけるのは非常に難しいと思います。

4歳の私の孫がスマホでタップしているのを見ると、これでいいのかと、未恐ろしくなります。

(夏苺教育長)

保護者の世代もどちらか言えばその傾向にあるかと思います。

(小嶋委員)

中学生、高校生を子どもに持つ親として、我が家もそうかなと、思います。今の子は、勉強しながらわからない言葉を調べるのもスマホ。電子辞書を買って置いてあっても、スマホの方が楽だからとすぐにスマホを手取るのですね。紙の辞書で調べれば、探し

たかったものが見つかって、その前後も自然に目に入ってついでに頭に入ることができると思うのですが、スマホで調べるとそれだけしか出てこない。全然関係ないもので普段自分が検索しているものが宣伝で入ってくると、そちらに興味がいき、気が逸れていってしまう状況がどの家庭でもあるのではないかと思います。

先ほど、スマホをいじる時間を半分でも読書に、ということでしたけれども、読書はとても大事だと思います。けれども、実際、親御さんが読書をしている姿を子どもが見ているかという、新聞すら読む姿を見たことがない子どもが多いように思います。ニュースもスマホで見られますし、新聞を取っていない家が多いと聞きますし、子どもが小学生の時から「学校で必要だけ友達の家でとっていないから二人分持っていく」、ということがありました。そもそも活字を読む機会が親子そろって減ってきているというところで学力の低下に表れているのではないかと思います。

子どもが小学生の時に、先生から家庭学習でやるとよいことがプリントで配られて、それを見ながら何をやるかを子どもと考えましたが、果たしてそれを子どもしか見ていなかったり親御さんが手にとっても仕事をしていて対応できなかったりということがあることを考えると、それが悪いと言えませんし、難しい問題だと思います。

家庭学習が時間数的に圧倒的に少ないことは明らかなので、その時間をどう確保していくかは難しい問題だと感じます。

(夏苺教育長)

P T Aと教育委員会との懇談会等を活用し話題にしていけたらよいと思います。行政としてできることは何かを考えていきたいと思います。

○今後の行事等予定について

資料により石井参事兼教育総務課長から説明する。

(夏苺教育長)

12月21日(火)の青少年問題協議会・いじめ問題対策協議会は、牧野教育長職務代理者に出席していただくこととなります。よろしく願いいたします。

(山崎副課長)

12月23日(木)の小田原三の丸ホールが会場である教育講演会は、教育委員の皆様御出席でよろしいでしょうか。御都合が悪くなりましたら連絡をいただければと思います。

(夏苺教育長)

次々回は1月27日(木)14時から。次回は12月22日(水)14時から開催します。

6 閉会 夏苺教育長から閉会の宣言をする。